



不活化ポリオワクチンについての国への要望

本年に入って、経口生ポリオワクチンによる定期予防接種の接種率が著しく低下しています。本年度4～6月の全国の接種者数は前年度比17.5%減少し、神奈川県では全国平均を上回る21.5%も減少しています。その結果として、非接種者と経口生ポリオワクチン接種者の接触による二次感染や、海外流行地からの輸入感染の危険性が高まっています。

厚生労働省では、早ければ平成24年度終わり頃に不活化ポリオワクチンを含む国産4種混合ワクチンの導入を図るとされています。

そこで、次の措置を講じるよう強く要望いたします。

- 1 不活化ポリオワクチンの国内早期導入を図り、定期予防接種ワクチンに位置づけること。
- 2 不活化ポリオワクチンの国内導入までの間、海外からの緊急輸入を特例承認し、定期予防接種ワクチンに位置づけること。

平成23年11月2日

厚生労働大臣 小宮山 洋子 殿

神奈川県知事 黒岩 祐治

